

ISSN 0913-9176

# 津山中央病院医学雑誌

第37卷 第1号 令和5年

The Medical Journal of TSUYAMA Chuo Hospital

Vol. 37 No. 1 2023

## 目 次

### 卷頭言

卷頭言 ..... 杉 敏子 … 1

### 原 著

パラインフルエンザウイルス3型感染小児の臨床的検討 ..... 児玉 悠暉他 … 3

### 看護研究

#### 中途採用者・部署異動者に対する支援の取り組み

～現状調査から具体的支援活動まで～ ..... 吉田 美佳他 … 11

当院におけるプリセプター支援に関する取り組み ..... 水島 加奈子他 … 19

プレパレーションの実施率向上を目指した取り組み ..... 加藤 真稀 … 25

### 雑 件

2022年度 CPC記録 ..... 三宅 孝佳他 … 31

学会発表及び教育活動 ..... 37

編集後記 ..... 藤島 護 … 53

令和5年9月15日発行

[一財] 津山慈風会

津山中央病院

〒708-0841 岡山県津山市川崎1756 TEL (0868) 21-8111

FAX (0868) 21-8205

津山中病医誌

M.J. TSUYAMA  
C.H.

## 卷頭言

津山中央病院

専門看護部長 杉 敏子

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行になったとはいえ、慌ただしい日が続いています。病床管理や看護師の人員配置も西川統括看護部長の指揮の下、大きなトラブルはなく経過しています。感染症病床の担当師長であった私にとって、感染症患者の人数把握とベッドコントロールの一元管理を看護管理室で行ってくださったことに、本当に感謝しています。また、患者移送時のエレベーター前の待機や外来患者への配慮、清掃など、職員の皆様には、本当にお世話になりました。

さて、私は、4月より専門看護部長の職に付き、4ヶ月が経ちました。10年間の病床管理を経験しましたが、これからは、看護部全体に目を配り管理するのが大きな役割だと実感しております。また、自施設のみならず地域まで視野を広げた看護管理が必要であると思っております。様々な問題が起った時に、看護部自体で解決できることなのか、他部署と相談しながら解決していくべき案件なのかを考える問題解決能力、そして、各病棟の調整を図るマネジメント能力が求められることに責任の重さをひしひしと感じています。

看護管理者教育課程の中で、管理は人・もの・カネ・時間・情報であると学び、実践できるよう努めてまいりたいと思います。

働き方改革関連法によって看護職の働き方改革がすすめられ、当院看護部も情報共有シートの作成、リアルタイム記録、看護補助者との協働など、様々な活動を行ってきました。昨年度、本誌に投稿した副師長・主任リーダーの始業前残業削減に向けた取り組みのアンケート結果から見えてきた課題に今年度も引き続き、取り組んでいきます。ユカリアタッチやLINEWORKSの活用、また神石プレストでの看護部サポート支援など、働き方改革として重要なことばかりです。システムやツールを効率よく活用し、看護の質向上と労働環境の整備を行っていく必要があります。

人材育成では、当院のクリニカルラダーが始まり5年目に入りました。やっと軌道にのってきたと実感していますが、PDCAサイクルを回しながら運用しています。今年度は、ラダーの評価者育成に取り組み、ラダーⅢの準備を進めていきます。これによって、評価が可視化され、自己成長につながってい

くと思います。

コロナ禍の影響でオンラインによる研修が増え、看護部の教育計画にも取り入れ、遠方まで行くことなく、受講することが出来るようになりました。自宅での受講希望もあり、興味のある分野に参加し、スキルアップを目指す看護師も増えたように思います。知識や技術などを習得し実践につなげていくことを期待します。これからも有効にオンライン研修を取り入れ、人材育成にも活用していきたいと思います。そして、看護の質が向上する看護研究に繋がり、本誌に継続して投稿できるように努力していくたいと思います。

## パラインフルエンザウイルス3型感染小児の臨床的検討

津山中央病院 小児科

兒玉 悠暉 上田 善之 中島由希子 奈良井 哲  
小野 将太 北本 晃一 杉本 守治 梶 俊策

### 要 旨

近年 multiplex PCR 法による FilmArray<sup>®</sup> 呼吸器パネルを用いたウイルス・細菌核酸多項目同時検出検査（以下 FilmArray）が保険収載された。当院では 2022 年 10 月から導入され、日常診療のなかで新たに診断できる呼吸器感染症の病原体が増えている。私たちはパラインフルエンザ 3 型 (PIV-3) の臨床像を把握するため、2022 年 10 月から 4 ヶ月間に当科で入院を必要とした小児のうち、FilmArray で PIV-3 が陽性であった 12 例（年齢の中央値 12.5 ヶ月、男 5 例、女 7 例）について検討したので報告する。全例で CRP が上昇しており中央値は 3.77mg/dl であった。胸部レントゲン検査において 8 例で肺炎像がみられた。6 例では経皮的酸素飽和度 ( $SpO_2$ ) が 94% 未満のため、酸素投与を要し、1 例では気管内挿管による人工換気を要した。同時期に当科に RS ウィルス感染及びヒトメタニューモウイルス感染により入院を要した小児例（それぞれ 16 例、14 例）と比較し、末梢血白血球数、CRP 値が高値で、肺炎像を呈する例が多くみられた。PIV-3 感染は下気道症状を伴うことが多く、一部に重症化がみられるなど、乳幼児の呼吸器感染症の原因ウイルスとして重要である。

キーワード：パラインフルエンザウイルス、FilmArray<sup>®</sup> 呼吸器パネル、下気道炎

### 緒 言

パラインフルエンザウイルス（以下 PIV）は 1955 年に、クループ症候群に罹患した小児から初めて分離され<sup>1)</sup>、インフルエンザウイルスに似ているが、受精鶏卵内での増殖が悪く、抗原部位が異なることから新たにパラミクソウイルスに分類された<sup>2)</sup>。エンベロープを有する一本鎖 RNA ウィルスであり、1 型から 4 型に分類される。1 型、2 型はクループ症候群、3 型は細気管支炎や肺炎が多い<sup>3)</sup>。4 型は上気道炎の割合が多いとされてきたが<sup>3)</sup>、我が国的小児例では下気道炎も多い<sup>4)</sup>。小児の下気道疾患による入院の 40%、クループ症候群の 75% を占めるとされる<sup>3)</sup>。PIV は迅速検査がないため、診断は抗体検査、研究室でのウイルス培養か PCR 検査が必要で、診断に時間を要していた。マイクロアレイ法による FilmArray 呼吸器パネルを用いたウイルス・細菌核酸多項目同時検出検査が 2019 年 11 月から集中治療室

で治療中の重症呼吸器感染症が疑われる患者に対して保険点数 963 点で保険収載となり、保険診療で PIV の診断が可能となった。さらに COVID-19 感染拡大を背景に 2020 年 7 月 22 日からは COVID-19 の患者であることが疑われる者に対し、SARS-CoV-2 を含む FilmArray 呼吸器パネル 2.1 によるウイルス・細菌核酸多項目同時検出検査（以下 FilmArray）が保険点数 1350 点で保険収載となり、日常診療の場において、短時間のうちに診断することが可能となった。当院でも FilmArray は COVID-19 対策のため、主に呼吸器感染症小児の入院時の検査として、2022 年 10 月から導入となった。これまで診断のできなかった呼吸器感染症の原因ウイルスが診断できるようになり、それぞれのウイルス感染がもたらす臨床像を実感できるようになった。今回、FilmArray 導入後しばらくしてパラインフルエンザウイルス 3 型（以下 PIV-3）の流行を経験したため、その臨床像について検討を行った。

## CLINICAL CHARACTERISTICS OF CHILDREN INFECTED WITH HUMAN PARAINFLUENZA VIRUS TYPE 3

Yuki KODAMA, Yoshiyuki UEDA, Yukiko NAKASHIMA, Satoshi NARAI, Shota ONO,  
Koichi KITAMOTO, Shuji SUGIMOTO, Shunsaku KAJI

Department of Pediatrics, Tsuyama Chuo Hospital

### Summary

Recently, the simultaneous detection of multiple viral and bacterial nucleic acid tests using the FilmArray<sup>®</sup> Respiratory Panel by multiplex PCR technology (hereafter referred to as FilmArray) has been included in the insurance coverage. The test was introduced in our hospital in October 2022, increasing the number of new respiratory infectious disease pathogens that can be diagnosed in routine medical care. In order to understand the clinical picture of parainfluenza type 3 (PIV-3), we report on 12 children who required hospitalization at our department during a 4-month period from October 2022 and who were positive for PIV-3 by FilmArray. (median age 12.5 months, 5 boys and 7 girls). All patients had elevated peripheral blood C-reactive protein (CRP) levels, with a median value of 3.77 mg/dl. Chest radiographs showed pneumonia in 8 patients. Six patients required oxygen administration due to transcutaneous oxygen saturation ( $\text{SpO}_2$ ) less than 94%, and one patient required artificial ventilation by endotracheal intubation. Compared to children who were hospitalized for RS virus infection and human metapneumovirus infection during the same period (16 and 14 cases, respectively), PIV-3-infected cases had higher peripheral blood leukocyte counts and CRP levels, and more cases showed pneumonia. PIV-3 infection is an important causative virus of respiratory tract infections in infants.

Key Words ; Human parainfluenza virus, FilmArray<sup>®</sup> Respiratory Panel, lower respiratory tract infection

## 中途採用者・部署異動者に対する支援の取り組み ～現状調査から具体的支援活動まで～

津山中央病院看護部 副師長・主任リーダー会 2グループ

吉田 美佳 山形 涼子 上原 徳子 田村しのぶ 山本加奈子  
棟久弓美子 赤松恵美子 遠藤壽美枝 大谷 孝代 小林 芳枝  
竹本真由美 野田 晶子 本田 由佳 山本 仁美

### 要 旨

部署異動者や中途採用者へのサポート体制を整え、働きやすい職場づくりを目的とし、取り組みを開始した。

まず、現状を把握するため対象者に困りごとやニーズなどを調査した。その結果、「経験があると思われる任される」「オリエンテーションがあれば良かった」「プリセプターがいると助かる」などの回答があり、入職直後のサポート不足が明らかとなった。そこで、入職時に各部署でオリエンテーションが受けられるように、オリエンテーションチェックシートを作成した。また、取り組みを継続していくためには、オリエンテーション実施者の負担を軽減する必要があると考え、オリエンテーション支援ツールの作成と導入支援を行った。

今後も取り組みの評価を継続し、入職時のサポートが定着することが課題である。

キーワード：中途採用者、部署異動者

### I. はじめに

日本看護協会の報告<sup>1)</sup>によると、2022年度は看護職員の離職率は増加し、正規雇用看護職員では11.6%（対前年比1.0ポイント増）、新卒採用者では10.3%（同2.0ポイント増）、既卒採用者では16.8%（同1.9ポイント増）であった。新卒採用者の離職率は同様の方法で把握してきた2005年以降、初めて10%を超えた。少子化が進む中、看護師の確保と定着は、安全、安心な医療ケアを提供するために対策が必要な課題の一つとなっている。

副師長・主任リーダー会では2019年度より、中途採用者・部署異動者への支援について取り組みを開始した。新卒看護師は入職後よりオリエンテーションや看護技術の集合研修があり、配属部署ではプリセプター制度による先輩看護師からの支援を受けながら、徐々に仕事と人間関係を学び適応していくように計画されてい

る。一方、中途採用者・部署異動者の場合、経験年数や経験値がさまざまであり、配属後に直面する問題として、暗黙のルールに翻弄される、新人扱いを受けて自尊心が傷つく、即戦力として業務をすることへの不安、気持ちを分かち合える同期がいないなど、入職時の支援の不足や人間関係づくりへの不安があることが報告されている<sup>2) 3)</sup>。高橋ら<sup>4)</sup>は、看護師が部署の異動により臨床経験を活用できず自己の能力不足を自覚する経験を述べており、継続教育の視点から看護師のレディネスに合わせた指導の必要性を示唆している。

そこで、2019年度は部署異動者・中途採用者を対象とし、配置後に困難に感じしたことや、どのようなサポートがあれば良かったかについてアンケート調査を行い、どのような支援が必要か検討した。

2020年度はその結果をもとに、各部署共通のオリエンテーションチェックリストを作成した。

**SUPPORT INITIATIVES AGAINST  
MID-CAREER EMPLOYEE AND DEPLOYMENT MOVER  
– FROM STATUS QUO RESEARCH TO  
SPECIFIC SUPPORT ACTIVITIES –**

Mika YOSHIDA, Ryoko YAMAGATA, Noriko UEHARA, Shinobu TAMURA,  
Kanako YAMAMOTO, Yumiko MUNEHISA, Emiko AKAMATSU, Sumie ENDOH,  
Takayo OHTANI, Yoshie KOBAYASHI, Mayumi TAKEUCHI, Akiko NODA,  
Yuka HONDA, Hitomi YAMAMOTO

Department of Nursing Staff, Tsuyama Chuo Hospital

Key Words ; mid-career employee,  
deployment mover

## 当院におけるプリセプター支援に関する取り組み

津山中央病院看護部副師長・主任リーダー会3グループ

水島加奈子 北山 愛 藤島 香 風呂 直子  
矢田佐知香 西川 充世

### I. 緒 言

当院では新人看護師の育成においてプリセプターシップを導入し、新人の育成を行っている。プリセプターシップとは、新人看護職員1人に対して、決められた経験のある先輩看護職員（プリセプター）がマンツーマンで、臨床での実習指導を担当する方法であるとされており<sup>1)</sup>、我が国の8割を超える病院が導入し、新人指導を行っている。その一方、医療の高度化や安全管理意識の向上、新人看護師の実践能力の低下により、プリセプターである看護師が疲弊しているという現状が指摘されている<sup>2)</sup>。当院のプリセプター自身も知識や自信のなさを自覚し、悩みやつらさを感じていることが明らかとなったことから、独自にプリセプター実践マニュアルを作成し、運用を行っている。マニュアルの運用が、プリセプターへの効果的な支援につながっているか、運用の評価とプリセプター支援体制における課題の抽出を行い、マニュアル改訂への示唆を得ることができたため報告する。

キーワード：プリセプター支援、精神的サポート、マニュアルの周知

### II. 研究目的

本研究の目的は、プリセプター実践マニュアルにおける運用の評価とプリセプター支援体制における課題を抽出し、マニュアル改訂への示唆を得ることとした。

### III. 研究方法

- 調査期間：2021年5月から2022年3月
- 研究参加者：当院プリセプター
- 調査方法：当グループのメンバー6名で検討し、作成した質問紙を用い調査を行った。質問紙の内容は、①プリセプター実践マニュアルがあることを知っていますか？②マニュアルをどのような場面で見ていますか？③プリセプター以外の看護師も見ていますか？④マニュアルを見て疑問に思うことを指導者に質問していますか？⑤マニュアルがあつて良かったと思いますか？とした。

4. 分析方法：得られたデータはエクセルで処理を行った。分析は当グループのメンバー6人で行い、さらに看護部長のスーパーバイズを受け、妥当性の確保に努めた。

### IV. 倫理的配慮

研究参加者には研究目的や方法、匿名性の保持、情報の管理や取扱について口頭で説明を行った。また、研究への参加は自由意思に基づくものであり、不参加や途中で辞退しても不利益を被らないことを保証した。なお、質問紙への回答と提出をもって研究参加に同意を得たこととした。

### V. 結 果

対象者43人に配布し、43人から回答を得た（回収率100%）。

①プリセプター実践マニュアルがあることを知っていますか？の問い合わせに対して、「知っている」

## PRECEPTOR SUPPORT INITIATIVES AT THIS HOSPITAL

Kanako MIZUSHIMA, Ai KITAYAMA, Kaori FUJISHIMA, Naoko FURO,

Sachiko YADA, Mitsuyo NISHIKAWA

Department of Nursing Staff, Tsuyama Chuo Hospital

Key Words ; preceptor support,  
emotional support,  
manual dissemination

## プレパレーションの実施率向上を目指した取り組み

津山中央病院3西

加藤 真稀

### 要 旨

小児科領域でのプレパレーションの効果に関する報告は多く、A病棟でも2010年に採血時のプレパレーションから開始し、腎生検や肝生検、成長ホルモンや扁桃腺摘出術など検査や処置、手術など多様な場面で対応できるよう、プレパレーションツールを活用し、プレパレーションを行ってきた。しかし、現状はキワニスドールや紙芝居などプレパレーションツールはあるが活用出来ていない。キワニスドールは寄付を受け、活用することで有効にプレパレーションを進めることができたが、存在を知らないスタッフもいた。これらのことからA病棟のプレパレーションは形骸化し、実施率が低いのではないかと考えた。A病棟は急性期の緊急入院が多く、平均在院日数は5.60日と短い。また、小児と成人の混合病棟であり、患児と関わる時間が少なくプレパレーションを実施するための時間の確保が困難となっているのではないかと考えた。小林らは「小児専門病院や小児科病棟のスタッフに比べ混合病棟の子どもの権利を保障した看護の意識が低いことは明らかになっている」<sup>1)</sup>と述べている。子どもが安心して入院生活を送れるようプレパレーションの定着に向けて取り組みを行ったのでここに報告する。

キーワード：プレパレーション、子どもの療養環境、子どもの知る権利

### I. 研究目的

プレパレーションの時間確保に着目し、時間短縮のためにプレパレーションツールを使用し業務改善を行うことで、プレパレーションの実施率が向上するか明らかにする。

### II. 用語の定義

プレパレーション：「prepare（準備する、覚悟する、心構えをさせる）の名詞形の preparation をカタカナにしたものであり、特定の目的や予定されているできごとのために、物や事を準備していくプロセスである。」

ディストラクション：痛みを修飾する要素である不安や緊張の非薬物学的緩和法。

プレパレーションツール：プレパレーションに使用する物品、方法。

キワニスドール：プレパレーションの際に使用する真っ白な人形。医師や看護師が内臓や治療部位を書き、説明に役立てるだけでなく、子

どもが思い思いに顔や服を描いて自分だけの人形を作り、入院中の心の支えになることもある。

### III. 研究方法

1. 研究期間：2022年7月1日～2022年9月30日

2. 調査対象：A病棟看護師23名と保育士2名。  
3. 研究方法

第1段階：プレパレーションの認知度と実施状況の分析（7/1～7/15）

対象看護師・保育士にプレパレーションの認知度と各自の実施状況について独自のアンケートを作成し調査した。アンケートの内容からA病棟のプレパレーション実施状況について確認を行う。

第2段階：プレパレーションツールの準備（7/15～8/1）

アンケート調査をもとにプレパレーションを円滑に実施するためのプレパレーションツールの作成を行う。

## EFFORT AIMED AT IMPROVEMENT OF PREPARATION IMPLEMENTATION RATE

Maki KATOH

Department of Nursing Staff, Tsuyama Chuo Hospital

Key Words ; preparation

children's medical care environment

children's right to know

## 2022年度 CPC記録

津山中央病院 病理診断科

柴田 嶺 三宅 孝佳

令和4年度 第1回 CPC 2022年11月19日(土)

出席者：医師6名 研修医17名

検査部他4名

### CPC 62 (AN 385)

【症例】60歳代 男性

【臨床診断】来院時 CPA、急性心筋梗塞

【主治医（出所）】宮原克徳（循環器科）

【病理担当】綾田善行（岡山大学）、三宅孝佳（病理専門医No. 2658）

【主訴】A病院より転院搬送

#### 【現病歴】

2年前に狭心症にて当院紹介受診歴あり、冠動脈CTにて有意狭窄なく当院終診となっていた。最近は胸部不快感が週1で明け方に出現しており、B病院にて精査予定であった。

死亡前日、6時50分に姉（別居）に「えらいから救急車を呼んで」と言っていた。

7時くらいに姉が患者の元へ行くと台所で腹臥位で倒れており救急要請し、指示を受けてBLSを施行した。7時15分に救急隊接触、初期波形PEA。救急隊により挿管、ルート確保され近くのA病院へ搬送。頸動脈触知不可となりCPAと判断→蘇生行為再開→ROSCを繰り返し、当院搬送となった。

当院到着時はROSCし、自発呼吸も出現していた。

【来院時現症】E4VtM5 HR 92回/分 BP測定できず BT 33.5°C SAT測定できず

pH 6.922 pCO<sub>2</sub> 54.1mmHg pO<sub>2</sub> 326mmHg

Hb 15.8g/dl Na 137mol/l K 3.3mol/l Cl 119mol/l Ca 1.14mg/dl Glu 230mg/dl Lac 14.6mg/dl HCO<sub>3</sub>- 8.7mmol/l ABE -24.0mmol/l AG 10.9mmol/l ECG HR 90程度 sinus III/aVFにてST上昇あり右脚ブロックあり

#### 【来院後経過】

採血施行および追加でルート確保後全身CT撮像へ。

CTでは明らかな頭蓋内出血病変なし、心大血管損傷なし、血気胸なし、腹腔内出血なし、実質臓器損傷なし、腸間膜損傷やfree airは認められず。

既に指摘されている左肺過誤腫あり、心筋梗塞が疑わしく循環器科Drへコンサルトとなる。その後、救急外来にて心室細動を発症したため救急外来にてVA-ECMO導入となり緊急冠動脈形成術を実施された。

【内服薬】ザクラス1T、ビソプロロール2.5mg1T、ニトロダーム25mg、ニトロペン舌下錠0.3mg

【嗜好歴】お酒：焼酎1合/日 タバコ：10本/日

#### 【剖検所見】

63歳男性。身長164cm。剖検は死後約4時間で行われ、開胸開腹を行った。胸部は蘇生処置による圧痕を認めた。胸腔内に瘻着はみられず、左胸水は500mL、右胸水は1000mLで、いずれも赤褐色血性であった。腹腔内は湿潤滑沢で

# The Medical Journal of TSUYAMA Chuo Hospital

Vol. 37 No. 1 2023

---

## Contents

Editorial .....	Toshiko Sugi .....	1
Clinical characteristics of children infected with human parainfluenza virus type 3 .....		
Support initiatives against mid-career employee and deployment mover	Yuki Kodama .....	3
-From status quo research to specific support activities- .....		
Mika Yoshida .....	11	
Preceptor support initiatives at this hospital .....		
Kanako Mizushima .....	19	
Effort aimed at improvement of preparation implementation rate .....		
Maki Katoh .....	25	
CPC records in 2021 .....		
Takayoshi Miyake .....	31	
Miscellaneous .....		
Mamoru Fujishima .....	53	

---